

# 令和4年度 小国町立小国中学校 教育計画

## 1 学校教育目標

白い森の国おぐにを愛し、たくましく、心豊かで、生き抜く力を身につけた小国人の育成

## 2 めざす生徒像

人間力を身につけ 小国町を元気にする小国中生

- 1 確かな学力を身につけ、自ら課題解決にあたる生徒
- 2 豊かな心を持ち、互いを認め合って成長する生徒
- 3 心身ともに健康で、根気強く、たくましい生徒
- 4 郷土を愛し、郷土を元気にしようと努力する生徒

## 3 めざす学校像

あいさつ・合唱・ボランティアで感動をよぶ学校 小国中学校

- 1 明るいあいさつと歌声が響く学校
- 2 思いやりの行き交ういじめのない学校
- 3 安全で安心のあるきれいな学校
- 4 家庭・地域から信頼される開かれた学校

## 4 めざす教師像

子どもと共に成長し、信頼される小国中教師

- 1 実践的教育力を常に高めようと努力する教師
- 2 常に子どもと感動を共感・共有できる教師
- 3 家庭・地域と連携を図り、期待にこたえる教師
- 4 教育公務員としての自覚に基づいて行動する教師

## 5 学校経営方針

(1) 社会に開かれた教育課程の推進を図り、これまでの教育活動を一層充実させながら、地域とともにある学校をめざす。

- ① コミュニティ・スクールの趣旨を生かし、学校経営に保護者や地域の意見を反映させるとともに、地域と協働する取り組みを進める。
- ② 学校運営協議会委員による広報活動や学校だより等を活用し、コミュニティ・スクールについての理解と学校パートナーの拡充に努める。
- ③ 地域学校協働本部（白い森子ども応援隊）との連携を図り、学校と地域住民が協働し、特色ある学校をつくる。
- ④ 学校評価等を活用し、家庭や地域からの声を積極的に聞き入れ、常に課題意識をもって教育活動の改善に努める。

**(2) 「保小中高一貫教育」のさらなる充実をめざし、連携した教育活動を展開する。**

- ① 第6次山形県教育振興計画、小国町保小中高一貫教育の方針に則り、小国小学校との連携を図りながら学校運営を推進する。(小学生への授業、児童会・生徒会合同活動、合唱や運動会の交流活動の推進 等)
- ② 小国高等学校との連携のあり方を再構築し、常に情報交換しながら生徒一人一人の個性を伸ばす教育を推進する。
- ③ 保育園から高校までの切れ目ない特別支援教育をめざし、特に小国小学校との情報交換を密にして個に応じた指導を継続する。

**(3) 「個別最適な学びと協働的な学びの融合」「自尊感情とコミュニケーション能力の向上」「心身ともに健康な体の育成」を中心に据え、知徳体のバランスがとれた教育活動を推進する。**

- ① ICTの活用を図りながら、より高い目標をもって課題解決に努めようとする主体性や協調性を育成し、学力と学習意欲の向上を図る。
- ② 生徒指導の三機能(自己決定力、自己有用感、受容的・共感的な人間関係)を重視し、生徒との適切なコミュニケーションを大切にしながら、学級・学年づくりを基盤とした学校づくりに努める。
- ③ 活動のねらいや意義の理解、見通しをもたせる指導、振りかえりと成果の確認を重視し、理解と納得が伴った生徒主体の取り組みを進める。
- ④ 事故防止と危機回避を何よりも優先するように心がけて、安全・安心な学校づくりを進めるとともに、教科体育や部活動指導を通して粘り強さとたくましさを育成する。

**(4) 教育活動全体に「いのちの教育」を浸透させ、いじめ、不登校の未然防止と特別支援教育の充実を図る。**

- ① 「学校いじめ防止基本方針」や「小国中学校生徒憲章」の理解を図り、安全・安心・安定した校内生活及び校外生活を送ろうとする意識を高める。
- ② 生徒一人ひとりの障がいや気質、家庭環境などを適切に理解し、特別支援の視点に基づいた教育活動を推進する。
- ③ 多様性を受け止め、一人ひとりの自尊感情を醸成して共感的な集団づくりに努めるとともに、保護者との共通理解と関係機関との連携を大切にされた個別指導を充実させる。

## 6 学校経営の重点と具体策

### **重点1:個別最適な学びと協働的な学びの融合を図り、確かな学力の向上を図る**

#### **(1) 学校研究を中核とした教科指導の充実とICT教育の推進**

- ① 教科、領域、その他の活動との関連を模索し、地域の人的、物的資源の活用に努めながら、授業改善を図る。また、各教科での言語活動の充実を図り、表現力や活用力を育成する。
- ② 生徒の興味や意欲を引き出し、自ら課題を設定して主体的・対話的に学ぶ探究型授業をめざして、きめ細かな単元及び本時の指導計画を立案する。また、学習の振り返りを大切にして、学びの実感と次の学習への課題意識を形成するようにする。
- ③ 学校研究の中核にICT教育の推進を据え、個別最適な学びと協働的な学びを融合させた授業を行うことで、確かな学力を育成する。そのために、年3回の授業研究会とICT活用のための研修会を企画する。
- ④ 全国学力・学習状況調査と教研式標準学力検査の結果を踏まえ、基礎・基本の定着を図るとともに日常の学習指導の改善を図る。

### 【授業改善のための共通実践項目】

- 一時間の授業や単元を通して付けたい力を明確にし、授業で本時の課題（めあて）を板書する。
- 発問の仕方を吟味し、インプット3割・アウトプット7割の授業をめざす（教学から共学へ）。
- 授業全体（課題解決）の見通しをもたせるとともに、授業の流れがわかる板書をする。
- 授業のまとめと振り返りの活動を大切にし、学びを積み上げる。
- 家庭学習を授業と関連づけた予習・復習の場にする。

### (2) 学年・学級での学業指導の充実

- ① 各学年の発達段階に合わせて、計画的に学業指導（学ぶ姿勢、学ぶ意義、家庭学習の進め方 等）を行う。
- ② 学年自治会を中心として生徒が自主的に取り組む活動を仕組むなどして、意識の高揚を図る。
- ③ 全校生で「チャイム学習（次の授業の学習をしてチャイムが鳴るのを待つ）」ができることを目標とし、自ら学ぶ生徒の育成に努める。
- ④ 白い森学習支援センターの事業を自発的な学びの場としての位置づけ、センター主催の学習会や個別講座等への参加を奨励する。

### (3) 読書活動とキャリア教育の推進

- ① 50分間読書の充実と読書活動パートナー、読育推進司書との協働により、心を耕す読育の活性化を図る。
- ② 生徒会活動等との関連を図って積極的に本の紹介を行い、読書に対する意欲を高め、習慣化に結びつける。
- ③ 3年間の系統性・継続性を考慮して総合的な学習の時間（白い森学習）を計画し、ねらいや意義を明確にした探究型の学習を推進する。

## 重点2: 受容的・共感的な人間関係づくりとコミュニケーション能力の育成を図る

### (1) 豊かな人間関係とコミュニケーション能力を育成する場の設定

- ① 「コミュニケーションはあいさつから」と捉え、生徒会3本柱の1つとして年間を通して「あいさつ」の大切さについて考えさせ、生徒のアイデアを生かして実践していく。
- ② 構成的グループエンカウンターの手法を取り入れるとともに、スクールカウンセラーによる授業や面談、道徳や学級活動の時間を利用した人間関係づくりに取り組む。
- ③ 生徒に対して「くん・さん」を付けて呼名することを心がけ、一人一人の人権を守り、一人の対等な人間として接するように努める。

### (2) 特別の教科「道徳」の実践

- ① 「特別の教科 道徳」の時間を大事にし、学年や学校全体で道徳の授業を見合うなどして、生徒の心に迫る授業を推進している。
- ② 道徳の授業で認め励ます評価をして、教師や周りの生徒から認められる体験を積みませ、自尊感情の育成を図る。

### (3) 豊かな関わり合いができる体験活動の実施

- ① 運動会、修学旅行、職業体験、文化祭などの感動体験を通して主体性や協調性を育成し、行事を通して人間力を育てる。
- ② 清掃やボランティア活動を縦割り班や部活動単位で行うことで、異年齢の仲間との交流を深める。
- ③ 地域学校協働本部（白い森子ども応援隊）と連携し、学校パートナーとの交流や地域活動を推進することで、年代を超えた地域住民との関わり合いを深める。

### (4) 自治活動の活性化と受容的・共感的な集団づくりの推進

- ① 生徒会活動と自治会活動の充実に努め、生徒会活動の3本柱「あいさつ」「合唱」「ボランティア」活動の進化・発展を図って「小国を元気にする小国中生」の意識を醸成する。
- ② 生徒会が企画する「シークレットサポーター」やQU アンケートに基づく「サポートグループ法」などを活用し、受容的・共感的な集団づくりを行う。
- ③ 「小国中学校生徒憲章」の趣旨を生かした生徒会活動を推進し、規範意識の醸成、自浄作用のある集団作りを推進する。
- ④ 部活動でつきたい力「あいさつ」「返事」「キビキビ行動」等の共通実践項目を設定し、リーダーを中心に校内外でめざす行動ができる部活動集団を育成する。

## 重点3:根気強く物事に取り組み、心身ともに健康な体を育てる

### (1) 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底

- ① マスク（できるだけ不織布）の着用、手指消毒、換気、三密を避けるなどの基本事項を徹底する。
- ② 山形県教育委員会や西置賜地区中学校体育連盟のガイドラインを遵守して、部活動における他校との交流について十分に検討を加えて実施する。
- ③ 正しい知識を身につけ、偏見や差別を生まない指導を心がける。

### (2) 年間を通したQトレ(クォータートレーニング)の実施

- ① 週4回の清掃の時間（15分間）に、半数の生徒が体カトレーニングを行う「Qトレ」を実施し、体力の向上を図る。
- ② 持久力を高めるQトレの成果を発表する場として記録会を実施し、一人一人の伸びを確認できるようにする。

### (3) 安全な学校環境づくりと自らの命を守る教育の充実

- ① 学校安全計画に基づいた計画的な事故防止の取り組みと安全教育を実施し、危機予知能力と危機回避能力を育成する。
- ② 学校だよりや安全だよりなどによる啓発活動や、校内の安全点検等を通して、「自分の命は自分で守る」という意識の向上を図る。
- ③ 小国小学校や保護者との連絡を密にしながら、食中毒・食物アレルギー・異物混入の絶無を図る。

### (4) 健康教育の充実

- ① 健康診断後の再検査や治療を積極的に進め、疾病の早期治癒に努める。
- ② 食育全体計画に基づいた食育指導の充実を図り、食と農に関する関心を高める。

## **重点4：小国町や地域を愛し、元気にしようと努力する態度を育てる。**

### **(1) 生徒会活動や部活動による町の活性化**

- ① 日常の「あいさつ・合唱・ボランティア」活動を通して、町や地域の方に元気な小国中学生の姿を披露する場を設ける。
- ② 大会での活躍を広報で報告したり、町や地域の行事で部活動の成果を披露したりすることで、町民に元気を与える。

### **(2) 白い森学習(地域学習)の充実と町や地域の行事等への積極的な参加の奨励**

- ① 町や地域について知り、自分たちにできることを考えて行動に移させることで、町や地域の活性化につなげていくようにする。
- ② 町や地域の行事、学習支援センター主催の夏休み地域体験講座などに積極的に参加するように呼びかけ、町の中心部だけでなく周辺部の方とのふれ合いも大切にする。

### **(3) 学校パートナーとの協働活動の推進**

- ① 「環境パートナー」「読書活動パートナー」「畑パートナー」との交流を深め、地域の方を知るとともに、小国中学校の様子を地域の方に知ってもらう企画を計画する。
- ② コミュニティ・スクールの強みを生かし、学校運営協議会との連携を強化しながら、地域住民の声を生かした学校教育活動を推進する。

## **7 今日的課題に対する学校としての取り組み**

### **(1) 特別支援学級の適正な運営**

- ① 進路を意識した特別支援学級のカリキュラムを作成し、通常学級との交流を図りながら、カリキュラムに沿った指導を展開する。
- ② 自閉症・情緒学級の新設に伴い、個に応じた環境(生活と学習の場)づくりを協議し改善していく。

### **(2) 適正な部活動の運営**

- ① 運動部活動基本方針に基づいた適正な部活動運営について随時検討し、それに基づいた設置部の決定に向けて協議していく。
- ② 定期的なコーチ・保護者会長会の実施と必要に応じた個別の連絡・面談を通して、部活動運営の共通理解と体罰・いきすぎた指導等の防止に努める。
- ③ 競技団体、スポーツ少年団、地域スポーツクラブ、各文化団体等との連携、部活動指導員の活用などを通して、地域住民による部活動指導を検討していく。

### **(3) 「学校の働き方改革」の推進**

- ① 週日課の工夫、朝の活動や清掃時間の削減等により、部活動の開始時刻・終了時刻を早めることで放課後の時間にゆとりをもたせる。
- ② 学校行事の日程を見直しそれに費やす時数の調整を図るとともに、教科指導の余剰時数を削減することで、長期休業期間を確保する。
- ③ 家庭訪問や教育相談を通して生徒の実態を把握し、保護者との連携を深めることで、その後の問題行動の未然防止と早期発見・早期解決を図り、生徒指導に要する時間の短縮をめざす。